

各委員からの意見を踏まえた協働事業等評価制度の検討状況

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
1 制度構築の目的	<p>様々な主体による市民協働が推進されるためには、種々実施されている協働事業が、しっかりと効果を生み出し、市民サービスの向上へとつながっていくことが重要である。</p> <p>しかし、市民のニーズや地域課題は刻々と変化しているため、協働事業を同じように実施し続けるだけでは、思うような効果をタイムリーに生み出すことができない。</p> <p>このことから、実際に行われている協働事業が、具体的にどのような形で市民サービスの向上や地域課題の解決などの目標を達成しようとしているか、また、それらの事業は協働の原則等を十分に踏まえて行われているかなどを、客観的に評価しながら、改善につなげていくための評価制度を構築する必要がある。</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価をするというのは難しいことだが、自己評価や相互評価、そしてこの会議の中で様々な意見交換をしながら第三者評価として検証を進めることは必要である。 ・個別の事業によって見なければならぬものが違うので、一律に測るべきかどうかなど、多様な考えがあると思う。評価のための評価制度ではなく、協働事業が課題解決のために効果的に実施されているかを評価することが目的となるのではないか。 ・評価をするに当たって備えて置かなければならない事項について、議論をするべきではないか。 	
2 現状と課題 (1)協働事業の評価に係る現状	<p>平成17年に策定した「NPO との協働推進マニュアル～職員用～」に基づき、協働事業を実施する団体及び行政が自己評価表に基づき、相互評価を行うこととされている。</p> <p>しかし、平成26年度協働事業実績調査において、協働事業の実施に係る評価・検証を行っているか調査を行ったところ、約7割は何らか評価・検証を行っている旨の回答があったものの、相互評価は行わず、アンケート調査のみとしている事例も多い。</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の協働事業の調査結果を見ると、評価手法はアンケート程度と回答している事業が多かったため、相互評価や第三者評価は必要である。 	
(2)協働事業の評価を行う上での課題等	<p>マニュアルに基づく相互評価については、原則として事後評価のみとなることから、協働事業の効果をより高めていくためにも、協働の理念や原則等に基づき、プロセスを含めた評価手法とする必要がある。</p> <p>また、全庁的に、協働事業を客観的に見直した上で、より効果的に事業を展開していこうとする取組姿勢が弱いため、第三者による客観的な評価・検証の仕組みを取り入れた制度構築が必要である。</p> <p>さらに、これらの評価制度について、職員が十分に理解し、積極的に取り組むことが何より重要である。</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価のもとになるもの、例えば事業開始前に役割分担表をつくることを決めておくなど、並行して進めていく必要があるのではないかと。事業形態によって何が大事なのか異なってくると思うので、評価の材料となるものを考える必要がある。 ・今までも評価は行ってきたと思うが、どのように生かされてきたのか。 ・課題がどれほど改善されたのかを知る必要もあるのではないかと。実施前と実施後で、指標を設定して比べることも必要ではないかと。 ・課題の洗い出しと整理が必要である。今後の会議の中で、評価のための課題の整理を行っていく必要がある。 	

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
(3) その他	協働のまちづくりを推進するとともに、各主管部課における具体的な協働の取組等を下支えするため、「府中市市民協働推進行動計画」の進捗状況等についても、評価・検証を行うことが重要である。		
3 具体的な制度構築のイメージ (1) 基本的な考え方	協働事業等評価制度は、種々ある協働事業を共通の基準で評価することによって、協働事業の実施に係る課題を整理するとともに、事業の質を高め、市民サービスの向上に結び付けることが可能となるようなものでなければならない。	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働は目的ではなくあくまで手法なので、評価をする中で、果たしてこの事業は協働に馴染むのかどうかという視点も必要である。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働で事業を実施した結果、協働という手法が馴染まない場合も出てくるのではないかと。そういった観点も評価から把握することができれば良いと考える。 (→)・評価シートの項目として入れるべきではないかということか。 (→)・項目として設定するというよりも、評価していく中であぶり出されていけばよい。 ・協働の手法が馴染むかどうかという点は、自己評価から第三者評価へと進んでいく中で明確になっていくと思うので、各評価がうまくつながっていくと良いと考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・市と市民だけでなく、主体が複数いる協働事業の評価方法も検討する必要がある。 (→)・主体が複数になる場合の各主体の関わり方には様々あるので、主体構成等を検討する必要があると考える。 	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価制度の構築に当たっては、協働事業の質を高め、市民サービスの向上に結び付けることが可能となるようなものでなければならない。 このため、単に事業の成果、経過等についての点数付けをするものではなく、「協働の手法を用いることにより、課題の解決や、市民サービスの向上にどのように寄与するのか」といった評価制度としたい。 ・評価の対象となる事業についても、協働事業としない方が市民サービスの向上に資すると評価される場合においては、その旨示唆いただけるような、柔軟な制度を検討していきたい。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業について、第三者評価を行う中で、当然「そもそも協働という手法が馴染むのかどうか」という議論が出てくることは十分想定される。しかし、あくまでも第三者評価は、協働事業が、具体的にどのような形で市民サービスの向上や地域課題の解決などの目標を達成しようとしているか、また、それらの事業は協働の原則等を十分に踏まえて行われているかなどを、客観的に評価しながら、改善につなげていくために行うものと考えている。 このため、「馴染む・馴染まない」の議論から、それらの議論に基づき、事業そのものに係る継続・見直し・廃止等の判断に終始するような評価制度とならないように検討したい。また、このような評価制度とすることによって、庁内の行政評価や行財政改革等の取組との住み分けもできると考えている。

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価を行う前段階として、事業ごとに作成する事業計画書も、評価シートに対応させる必要があるのではないか。 <p>(→)・作業のための作業になり、苦痛になってしまうので、このシートを見て、どのような評価項目があるのかを事前に知っていただければよいのではないか。</p>	
<p>(2) 評価対象</p> <p>ア 協働事業</p> <p>イ 行動計画（当該計画に掲載される推進方策の取組状況）</p>		<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業には市主体で行うものと市民主体で行うものの2パターンがあるが、後者の事業も対象に含まれるという認識でよいか。 <p>・協働事業には様々な種類があるので、グループ分けは重要である。その際、全事業の行程や予算規模など、グループ分けに役立つような資料があればよいと考える。</p> <p>・市民提案型協働事業については、担当課と実施団体が打合せをした後、審査会を経て事業の実施が確定するので、ある意味、第三者に一度評価をされているのではないか。そのため、協働のパートナーが正式に決定した翌年度、二者で評価を行うのがよいと考える。</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業については、「市民提案型協働事業」のように市民主体の事業もあれば、市が予算措置をしてから協働のパートナーを探して行う行政主体のものなど、様々である。したがって、第三者評価の対象については、これらを広く捉えていけるように検討していきたい。 <p>・現在、市民協働推進会議において、協働事業の評価のための詳細なグループ分け等の作業を行うことは想定していない。なお、評価に当たり必要な事業行程や予算等の資料については、自己評価や相互評価に係る資料と合わせ、お示しする予定である。</p> <p>・市民提案型協働事業については、ご指摘のとおり、選定に当たって第三者からの評価を受けているが、実施後についても、「より良い協働のために」という視点で、第三者評価の対象にしていきたいと考えている。</p>
<p>(3) 評価方法</p> <p>ア 自己評価</p>	<p>自己評価用のチェックシート等を用い、協働の原則に照らしてどうか、また、市民ニーズや満足度、目標等についての程度達成できたかなど、協働事業の効果や成果等について、評価・検証を行う</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価を行う目的は市民サービスの向上であり、協働の手法が有効なのかどうか等を検討することであることから、中期的な評価若しくは振り返りは何度実施してもよいと考える。 <p>なお、評価というより、振り返りシートと捉えれば、有効な見直しにつながるのではないか。自己満足に陥ることが一番危険なので、原点に立ち返るという意味では必要である。</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価については、協働事業をより良い事業にしていくためのものであり、ご指摘のとおり、まずは自身の取組について振り返ってもらうために行うものである。 <p>これを踏まえ、自己評価シートについても、いただいたご意見に基づき、分かりやすく、また、より効果的に振り返りを行えるように工夫をしていく。</p>

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返り」という言葉であれば、反省から次に繋げる改善点を見つけるという意味に捉えられるが、「評価」という言葉の場合、自己評価で「1」をつけてしまったら、もう協働で事業を行わせてもらえないのではないかと、低い点数をつけることに抵抗を感じることはないか。 (一)・事業実施主体の方は、自分たちの自己評価がどのように使われるかということについて、どのように知ることができるのか。 (一)・行政評価の場合は事業の継続・見直し・廃止という観点での評価となるが、協働事業の場合は、事業をより良くしていくための評価として活用いただくことが重要であるため、継続か廃止か、といった視点ではない。 ・自己評価シート(案)について、中間支援組織が主体として関わる場合や、市と市民との間に立ってコーディネートをする場合があるが、その際の役割や効果などを記載することはできないか。 具体的には、「お世話になった人リスト」のようなものを入れることはできないか。どのような支援があって実施することができたかを知ることができれば、「そこを強化すれば協働が進む」といった評価をすることもできるのではないか。 (一)・その項目を入れる場合、自己評価シートと相互評価シートのどちらに入れるべきか。 (一)・シートとは別に、どのように関わったかを記載した資料等を添付することは可能であると考える。 中間支援組織の関わり方にはある程度パターンがあるので、事業ごとに細かく記載するのではなく大枠を作ると分かりやすいのではないか。 ・評価方法について、5段階評価は細かいように思われるかもしれないが、協働事業を評価するに当たっては、適していると考える。 (一)・5段階評価には賛成だが、パーセンテージと言葉の表現について、20%以下が「まったく達成されなかった」となっており、妥当かどうか検討する必要があると考える。 	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働で事業を実施するに当たり、事業実施主体は、より良い事業にしていこうという思いを持って実施いただいているものと認識している。そのため、より良い事業とするための改善点という意味合いを含めて「1」をつける場合もある。自己評価シートには、相互評価につなげるための他己評価という意味合いも含まれており、自己評価を元に相互評価を行っていくので、率直な意見を記入いただきたい。

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よかったこと」、「課題だったこと」、「今後やった方がいいこと」の3点を振り返りの際に着目しているが、この自己評価シートを見ると、よかった点や工夫した点等を記載する項目がなく、その他の自由記入欄に記載するのか、もしくはヒアリングの際に口頭で聞くのか疑問がある。 ・自己評価シートの裏面にある「対象者満足度」とは、アンケート結果等を踏まえて記載するのか。<u>アンケートの実施が馴染まない事業の場合、どのように把握すればよいか。</u> ・自己評価シートの裏面にある「事業の成果」の欄について、「目標達成度」、「対象者満足度」、予算や人的資源規模は事業そのものの評価だが、「事業実施者満足度」と「相乗効果は得られたか」については、<u>協働で実施したことによる成果なので、順番を入れ替える必要があるのではないか。</u> ・<u>協働で実施したことによる成果は、自由記入欄に記載すれば足りる程度のもので、事業の成果の項目としてあえて設定する必要はないのか、もしくは最も聞くべきところであり、事業の成果欄の一番上に位置付けるなど、整理する必要はあるのではないか。</u> 	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート(案)の項目について、「よかったこと」や「課題だったこと」、「今後やった方がいいこと」は、主観的分析である「今後の課題」から「自由記入欄」にご記入をいただくことを想定している。しかし、<u>現状の項目では、ご指摘いただいたように記入しづらい面もあるため、整理をしていきたい。</u> ・対象者満足度については、現時点では事業ごとに実施したアンケート結果を使用することを想定しており、<u>アンケート実施が馴染まない場合は当該項目については評価を行わないこととする。</u> ・自己評価シート裏面の事業の成果欄については、<u>いただいたご意見を総合的に検討し、整理していきたい。</u> ・「協働で実施したことによる成果」については、<u>自己評価シート裏面の事業の成果欄「19 相乗効果は得られたか」において把握を試みている。なお、事業の成果欄の順番については、いただいたご意見を総合的に検討し、整理していきたい。</u>
イ 相互評価	協働の当事者が、それぞれ行った自己評価をもとに意見交換を行い、評価が異なる項目の原因分析や改善点、課題の抽出等を行い、評価する。	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>協働で事業を行う際、協働の定義についての認識は、行政と市民の間、また、行政の部署によっても異なる場合があるのではないか。そのため、シートを作成することにより、主体間の認識の違いを理解し、コミュニケーションにも力が入るのではないか。</u> 	
ウ 第三者評価	協働の当事者以外の第三者が、協働事業に対する信頼性と市民の参加意欲の向上を図るとともに、より客観的に課題を把握し、検証結果を今後の取組に活かせるよう、評価する。	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を行うのは市民協働推進会議か。他の機関は想定していないか。 	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業の第三者評価等のために、平成27年度より常設の附属機関である府中市市民協働推進会議を設置している。 このため、当該推進会議において効果的かつ効率的に評価していただけるような制度を検討したい。

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民提案型協働事業の資料等から、公共性や予算規模、効果などのうち、ターゲットによって異なってくる「公共性」についての評価が最も難しいのではないかと。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体が考える事業の継続性だけでなく、評価の中には市として事業がどのように生かされていくかという観点も必要ではないかと考えるので、<u>協働の広がり可能性についても、第三者評価に含めてよいのではないかと。</u> ・第三者評価を行うに当たり、協働事業としての評価と、事業そのものの評価を同時に行ってしまうとよいかと。 (→)・市長には、市職員の意識をより強くしてほしいという思いもあると思うので、様々な事業において、協働の手法が適切なのかどうかを判断するため、事業そのものの内容も見る必要があると考える。 また、第三者評価は客観的な視点での評価を求められることから、事業そのものの内容も把握しなければ、協働のあり方を検討することはできない。このため、当事者では気付かないところを気付くようなものにシートを工夫する必要があるのではないかと。 ・自己評価シート及び相互評価シートと第三者評価に係るシートで、「市民」や「団体」などと表現が異なっているが、統一すべきである。 ・ヒアリングシートの一番下に記載されている「評価項目」が気になる。<u>意見交換会では事業実施主体から話を聞くだけで良いのか、または評価を念頭に参加しなければいけないのかによって、意味合いが異なってくるため、取扱いについて明確にしてほしい。</u> ・意見交換会ヒアリングシートは不要ではないかと。 (→)・意見交換会に臨むに当たってのメモとしてであると、意見交換会後の本会議においても、役に立つのではないかと。 	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は、団体、行政及びグループに分かれた推進会議の委員による意見交換を経た後、各委員がその結果を推進会議全体会に持ち寄り、会議としての評価を決定するイメージである。<u>このため、意見交換会には、評価を前提として参加をしていただくことになる。</u>なお、ヒアリングシート自体は公表しない。

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第3回】 ・ヒアリング自体、やらなくても良いのではないか。 (→)・第三者の視点が必要なので、意見交換会の場は必要であるとする。</p>	<p>【第3回】 ・現在、事務局でイメージしているヒアリングは、2グループないし3グループに分かれて意見交換を行い、意見交換終了後、本会議の中で第三者評価を行っていただくというものであり、共通のヒアリングシートを用いることで、その後の評価が行いやすくなると考えている。なお、ヒアリングシートそのものを公表する予定はない。</p>
(4) 対象事業 ア 自己評価	原則として、全ての協働事業を対象とする。また、行動計画についても、当該計画に掲げる全ての推進方策の取組状況が対象となる。		
イ 相互評価	原則として、全ての協働事業を対象として実施する。		
ウ 第三者評価	協働を推進していくためには、全ての協働事業に対して評価を行い、質や効果を高めていくことが望ましいが、実際には協働事業数は数多くあることから、十分な評価をすることができない恐れもある。 このため、前年度に実施した事業のうちから、あらかじめ評価対象とする協働事業を絞り込み、評価を行うものとする。 一方、行動計画については、当該計画に掲げる全ての推進方策の取組状況が対象となる。	<p>【第2回】 ・評価対象がかなり広範囲に渡ると思うが、この会議のただけで評価できるものか。</p> <p>【第3回】 ・評価の対象とする、推進会議が選ぶ約10事業については、短期だけでなく、長期の事業も含まれるのか。</p>	<p>【第2回】 ・協働を推進していくためには、全ての協働事業に対して評価を行い、質や効果を高めていくことが望ましいが、実際には十分な評価をすることができない恐れもある。 このため、前年度に実施した事業のうちから、あらかじめ市民協働推進会議において評価対象とする事業を選定し、評価を行うことができないか検討したい。 その際には、庁内各部の調整役を担う管理職により構成される市民協働推進委員会との連携を図ることにより、市の実情を踏まえつつ、より効果的な評価制度となるようにしたい。</p> <p>【第3回】 ・行政は原則単年度会計のため、単年度の事業が多いと思うが、中には複数年度にわたって実施する協働事業もあるかと思うので、様々な事業を想定して議論していただきたい。</p>

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議において、約10件の協働事業を選定して評価をすることだが、その選定の根拠について、市民と市との意見の間に幅があったものを選ぶのか、もしくは事業の効果が十分に得られた事業、得られなかった事業を選ぶのかなど、議論の余地がある。 	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の選定については難しい面もあるが、協働のパイロット事業として、前向きに伸ばしていきたい事業や効果があったものはもちろん、事業効果がどうだったのか、と思われる事業についても、評価対象の候補に入れることができればと考えている。
(5) 実施時期	<p>自己評価及び相互評価については、原則として事業実施前、事業実施中及び事業実施終了後にそれぞれ行うものとする。</p> <p>また、第三者評価については、市民協働推進会議において、市が行う実績調査に基づき、事業終了後の翌年度に実施し、必要な意見をまとめ、市長に答申する。</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業の評価の実施時期について、実施期間の長い事業は、具体的にどのタイミングで自己評価・相互評価を行うイメージなのか。 <p>・長期にわたり実施される事業の評価のタイミングについては、「事業計画段階」において、それぞれ決めるようにしてはどうか。</p> <p>・評価のタイミングを決めるのは非常に難しい。評価すること自体が目的になってしまうような気がする。</p> <p>・評価のタイミングについては、単発の事業でさえも、事業実施段階の評価は担当者同士が口頭で行うのがやっとの現状であり、長期の事業ともなると、評価が目的となってしまう、あまり合理的ではないように思う。一方では、仕組みがないと協働ならではの質の違いを理解するタイミングもなくなってしまうことから、短期の事業と長期の事業で、いくつかパターンを検討しても良いのではないか。</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事業計画段階の評価」とは、事業をどのように進めていくか話し合う打合せの段階で実施するイメージである。「事業実施段階の評価」とは、1日だけの単発事業の場合は、事業計画から事業実施日までの間に、協働の原則に基づき進めることができているか、当日に向けて一度確認をするために実施する。また、年間を通じて行う事業の場合は、1回目の事業の前後など、適切なタイミングで実施する。また、「事業終了段階の評価」とは、全ての事業が終了した段階で、計画から事業当日まで、協働の原則に基づき行うことができたか、また、事業全体としてどうだったか評価するものである。

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
		<p>・予算を伴わない場合の計画段階をどこから判断するのかという点は非常に難しいと考える。</p> <p>・予算編成のことを考えると、事業計画段階には前年度の夏・秋からの期間も含まれるのか。</p> <p>(→)・事業実施段階以前の協働主体の活動も含めて検討した方が良いのではないかとということか。</p> <p>(→)・協働事業の中には予算を伴う事業もあるため、予算要求の段階も評価に含まれるのかと思っていたが、事務局の説明を受け、当該年度になり、協働のパートナーを募集・確定してからが計画段階の評価の対象になるということであった。</p> <p>(→)・事業計画前の段階については、この会議で検討しなくて良いということか。</p> <p>(→)・パートナーが決まっていない段階はフォーマルではないので、決まった後の方が良いと考える。</p> <p>(→)・市が計画をして、協働相手を探す事業が対象となるということか。</p> <p>(→)・その点についても、この会議の中で議論されたい。</p> <p>・現実的には、事業終了段階で評価を行うものが多いと思われるが、事業によっては事業実施中に評価を行うことは難しいのではないかと。</p> <p>・複数年度に及ぶ事業は、半期に一度振り返りを行うなど、定期的に顔を合わせる必要があると思うが、単発の事業でも行う必要があるか懸念されるので、事業によってパターン分けをすることは良いと思う。</p> <p>・長期の事業では「修正」という意味を含めて、中期的な振り返りが必要だと思う。評価シートを完成させるための評価ではなく、協働の原則の下、実施できているか確認をする必要がある。</p> <p>・短期の事業における評価は、事業終了段階の評価だけでよいのではないかと。</p>	<p>・予算編成前の協議ももちろん「計画段階」であるが、協働のパートナーとの関係も未確定であるため、評価の対象にはなりにくいとする。事務局がイメージする「計画段階」とは、予算措置後の当該年度に入ってからと考えている。</p>

項目（案）	内 容	推進会議における質疑・意見等	意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等
(6) 評価結果の公開	協働事業の透明性を高め、市民の理解を得るとともに、参加意欲を高めるため、評価結果を公表することとする。	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業の中で「市主体の事業」が多いことが気になったので、「市民主体の事業」が増やせないか検討していく必要がある。そのためには、市民への情報公開の方法も併せて検討していく必要がある。 ・評価結果の公表にも力を入れていくことで、新たな協働事業が生まれてくるのではないか。 	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価制度の構築に当たっては、協働事業の質を高め、市民サービスの向上に結び付けることが可能となるようなものでなければならない。評価の実施や結果の公表を通じて、市民サービスが向上し、さらには新たな協働の展開につながるような制度を検討していきたい。
(7) その他	評価制度を効果的なものとするため、各部の調整役を担う管理職により構成される市民協働推進委員会との連携を図る。	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業を応援し、伸ばしていくのであれば、思い切って評価の高い事業を公開し、市長から表彰をもらえるようにするのはどうか。 	